

原子力友の会 総会（第14回） 議事録（案）

開催日時：2025年11月1日（土）16:00～18:10

方 式：対面とオンラインのハイブリッド

場 所：10号館5階 原子力安全工学科実験室 & Zoomミーティングルーム

案内配信数：361名（校友会事務局にて管理されている本会のメールアドレス登録のある会員数）

出席者（敬称略）：

[対面]

萩原武司、菅野正行、高崎史晟、菊地漱祐、和佐陽斗、青山友祐、満島緑里子、牟田仁、鈴木徹、大鳥靖樹、河原林順、内山孝文、羽倉尚人

[オンライン]

泉正憲、岩井梢平、石丸卓、佐藤勇（17名）

配布資料：【原子力友の会】第14回総会資料（配布用）一式 R00.pdf

議題及び報告

1. 泉副会長挨拶

友の会は1年程度の準備期間を経て2011年11月に発足した。今回で14回目の総会となる。来年度は15年の節目の年となる。原子力の業界で勤務される卒業生の中には勤務地が地方となる方も多くいらっしゃるため学内でのイベントに参加しづらいという面もあるかもしれない。今回の様にオンライン併用で少しでも交流する機会が作れるとよいと思う。学生さんの活動支援、卒業生同士の懇親の機会として原子力友の会が有意義な場となる様に尽力していきたい。在学生を含めより多くの卒業生に原子力友の会を認知してもらえるようにしていきたいと考えている。

2. 議事録の確認と2024年度以降の主な出来事（活動報告）

前回議事録の確認を行い了承された。2024年度の総会（2024年11月2日）以降の本学における出来事についての紹介があった。

3. 「原子力友の会賞」について

2024年度は7名に授与したことの紹介があった。第1回からの受賞者と発表タイトルの一覧が紹介された。また、2025年度の発表会における審査についても例年通り実施することが確認された。

4. 会計報告

2024年度の収支報告がなされ、承認された。説明の中で「校友会からの活動支援」として「192,100円」が収入として入っているが、この額は年々減らされているといったことはあるのかとの質問があり、活動に応じて配分されているもので学生支援などの活動を活発に行っているとそれだけ多くの支援金をいただくことができると説明があった。併せて、原子力友の会はほかの学科同窓会の中では活発に活動を行っている方であるということも紹介された。

5. 活動計画／予算計画、学生・院生への活動支援策について

今後の活動計画および予算についての説明があった。学生の企画による見学会として今年度は2月から3月にかけて福島方面の訪問が計画されておりその旅費の一部を補助することについての説明があった。本計画の詳細については、講演会の部における関連会からの報告の中で説明があると紹介された。放射線取扱主任者試験の合格者補助については、2025年度1種1名、2種1名の合格が出ていることの紹介があった。大学院のアクティビティ賞について、年度末に集計が完了となったことから4月に入ってからの支出となったことが説明された。こうした学生支援に対して、原子力友の会がサポートしていることをより認識してもらえるように授与する際などに

配慮してもらえるとよいとのコメントがあった。未確定部については幹事会に一任ということを含め、活動計画及び予算計画は承認された。

6. JABEE 認定とご助言のお願い

2016 年度入学以降の学生は、原子力安全工学科を卒業すると JABEE 認定コース終了として技術士 1 次試験の免除が付与されることの紹介があり、今後も JABEE 認定を継続していくにあたり、社会へ送り出す卒業生の「目指す技術者像」について卒業生からご意見をいただきたいという依頼があった。原子力友の会で行う様々なイベントの際に気づき事項を教員にお伝えいただければとの依頼があった。また本日の講演の部における卒業生からのお話の中で、学生に対するメッセージを頂けるとありがたいとのコメントもあった。

7. 最近の本学及び原子力安全工学科の状況について

学科主任教授・牟田仁先生から最近の本学及び学科の状況について紹介があった。学生の活動に対する支援に感謝の意が示された。学生が現場を見る機会は非常に重要であり今後も継続してもらいたいと思っているが、そのためには活動費が必要である。この一部を支援いただくことは大きな後押しとなっている。引き続きお願いしたいというお話があった。

8. そのほか

堀内則量先生が 2025 年 4 月 9 日に 81 歳でご逝去されたことが紹介された。友の会からはお花と弔電をお送りしていることの紹介があった。堀内先生は原子力友の会の発足にご尽力され、2008 年に設置された原子力安全工学科の初代学科主任教授を務められたことの紹介がった。

以上

【講演会の部の紹介】16：33～18：10

総会に引き続き、講演会の部として学生、卒業生、教員からそれぞれ1件ずつご講演頂いた。

教員からは、河原林順先生に「ガンマ線イメージング研究」と題して、これまでに取り組まれてきた研究の一端をご紹介いただいた。2000年代に行われた地雷探知のためのγ線イメージングに関する研究の紹介があり、中性子源を用いて爆薬中の元素と中性子の反応から発生するγ線をとらえることで地雷を探知しようとするものであった。その後その研究成果を利用して、福島事故への適用が検討されたことや、最近では医療分野への応用が研究されていることが紹介された。質疑応答では、これらの研究開発についてどのくらい実用化されているものなのかという質問があり、放射線を伴う事故時に現場に行く医療チームが検出器を持って行ったところ特異的な信号を検知することができた事例の紹介があった。また原子力施設の周辺に配置しておくことで、避難行動に生かすことができるのかということに興味があるといったコメントがあった。

卒業生からは、高崎史晟さんに「学生時代の失敗が教えてくれたこと～廃炉の現場から～」と題して講演いただいた。2020年3月に共同原子力専攻を修了され、現在は東芝エネルギーシステムズ株式会社 原子力機械システム設計部にて勤務されている。業務として取り組まれている福島第一原子力発電所3号機の使用済み燃料プールからの燃料取り出しに関するプロジェクトについての紹介とともに学生時代に経験したことがどのように生かされているかをご紹介いただいた。学生の時に就職活動を通じて「コミュニケーション能力が必要」ということが言われたが、当時は正しく理解できていなかつたと振り返った。社会人基礎力として紹介される12項目を示しつつ、「前に踏み出す力」「考え方」「チームで働く力」が実際に仕事をする上では重要であり、これらの力は身に付けようと思って身に付けられるものではなく、様々な失敗を含めた経験を通じて身についていくものを感じている。学生時代にはぜひこうした失敗を含めた経験を多く積むようにされるとよいのではないかとお話をされた。

学生からは、閃源会の学部1年生・満島緑里子さんと2年生・青山友祐さんが「閃源会の活動報告」と題して、今年度の活動実績と今後の計画について紹介した。2月から3月に企画している福島方面の見学会の詳細を含め、さまざまな活動を実施していることの紹介があった。廃止措置の現場や実際の設備等を見たいという学生さんたちの希望に対して、卒業生や教員から様々なアドバイスやコメントがあった。

2022年度の講演会から、現役の学生、卒業生、そして教員による3本立ての講演として実施している。原子力友の会の重要な役割である大学と卒業生をつなぐ架け橋となるという意味で非常に良い取り組みではないかと自負している。原子力安全工学科は2008年に設立されてから17年が経過し、教員はほぼ入れ替わっている。卒業生にとっては馴染みのある先生がいない状況となっている。また都市大に名称変更されたのは2009年であるため、武藏工大時代を知る人は減少している状況にある。卒業生に現在の教員を紹介する機会として、また、最近の卒業生にとっては恩師がお話をされるのを聞く機会として有効に活用していかねばと思う。また、卒業生から学生へ向けたメッセージは、現在の社会が求める技術者像を示しているといつてもよい。JABEE認定を受け、継続的な教育改善に取り組む学科としても、こうした卒業生の声を聴く機会として、また、学生に聞いてもらう機会として活用していくことが重要ではないかと考えている。

(文責：羽倉)